

第108回 令和7年10月22日（水）

再生可能エネルギーの将来について。

最近やっと涼しくなってきたものの、地球温暖化を感じない人は少ないでしょう。（温暖化はフェイクだと主張する人はいますが。）

二酸化炭素の排出量をいかに規制するかがポイントですが、世界的にはあまり効果が出ているとは言いがたい状況です。

太陽光や風力と言った再生可能エネルギーは建設のコストで逆に多くの環境破壊を生じかねないと言われています。北海道の釧路湿原のメガソーラーパネル問題が記憶に新しいところです。

EVの開発も鈍化しています。結局EVエンジンの生産工程で多くのエネルギーを必要とすることで本末転倒になっているという状況もあるようです。

2050年までに二酸化炭素の排出量を大幅に減らすために日本は何をすべきなのか。少なくとも環境破壊ではないでしょう。

原発は福島第一で危険性が証明されたものの、与党はその存在なしでは日本経済は維持できないことを政策で明らかにしています。それも確かであるがゆえに、いまだ帰宅できない福島の人々や、廃炉にできないロシアのチェルノービリの惨状を見過ごすことはできません。

人工のミニ太陽をつくる核融合について各国の科学者は長い間研究を続けています。1グラムで石油8トン分、しかも原料は海洋に無限にあって、安全性も高いのですから夢のエネルギーと言えます。

これを実用化できればノーベル賞間違いなしと言われていますが、現在研究のトップを走っているのは日本と言われています。ただ日本の基礎研究は予算を削られ衰退の一途なので他国に道を譲ることになる可能性は高いと言わざるを得ません。

夢の核融合システムを開発し、地球温暖化から世界を救う研究ができればまさに世界の救世主となるでしょう。そのためにはじめとした基礎研究への予算は潤沢にしていきたいです。

今年も日本人お二人のノーベル賞受賞者が生まれました。ただ、これは20年前の研究成果で、現在の研究予算削減の状況で20年後に受賞者がいるかどうかはわかりません。日本人の英知が失われることがないように願っています。